

平成23年度にマンモグラフィ読影資格審査講習会を開催予定

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん部会
鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会

- 日 時 平成22年12月25日（土） 午後1時40分～午後3時10分
- 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 26人
岡本健対協会長、石黒部会長、工藤専門委員長
阿部・井奥・大口・大久保・岡田・洞ヶ瀬・小林・田中・
前田・廣岡・藤井・山口・吉田・吉中各委員
オブザーバー：藤原智頭町保健師、生田米子市保健師
松本米子市保健師、松本岩美町保健師
県健康政策課：下田副主幹、横井主事
健対協事務局：谷口事務局長・岩垣係長、田中主任

【概要】

平成21年度実績は、受診者数が前年度より約4,600人、受診率は3.9ポイントも増加したが、要精検率、がん発見率、陽性反応的中度は前年度と大きな変化はなかった。

女性特有のがん検診推進事業として、検診無料クーポン券が配布されたことにより受診率向上効果が見られるが、鳥取県の利用率は全国平均と比べると低かった。

鳥取県マンモグラフィ読影講習会を平成23年10月29日（土）～30日（日）、鳥取県健康会館において開催されることとなった。この講習会は、「鳥取県地域医療再生基金」からの補助金を活用し開催する予定。

報告事項

1. 平成21年度乳がん検診実績最終報告について （県健康政策課調べ）：

下田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹
〔平成21年度最終実績〕

平成21年度対象者数118,676人、受診者数19,278人、受診率16.2%で、平成20年度より受診者数4,654人、受診率3.9ポイントも増加した。

要精検者数1,544人、要精検率8.01%で前年度より0.3ポイント増加した。精検受診者数1,427人、精検受診率は92.4%で、前年度より0.2ポイント減少した。

精検の結果、乳がん57人、がん発見率（がん／受診者数）0.30%、陽性反応的中度（がん／精検受診者数）3.99%であった。がん疑いは1人発見された。平成20年度と比べがん発見数が9人増加したが、がん発見率は0.03ポイント、陽性反応的中度は0.57ポイント減少した。

要精検率は全国平均8%とほぼ同様となり、東

部8.48%、中部7.56%、西部7.80%であまり圏域での差もない。がん発見率は東部0.30%、中部0.26%、西部0.30%、また、陽性反応的中度は東部4.0%、中部3.7%、西部4.1%で、圏域での差がみられなくなった。

年齢階級別にみると、40歳代から64歳までの受診率が例年20~30%を推移していたが、平成21年度は30~40%と高くなっている。要精検率は例年と同様に40歳~54歳まで高い。

視触診検診のみ受診者数は72人で、そのうち要精検者数41人で、精検の結果、乳がんは1人であった。

年齢階級別の受診率をみると、50%を超えるところもある。市町村検診の対象者は職場等で受診機会のない者としているため、就労者が対象から外されている。よって、県では、県内全体のがん検診率を算定するため、事業所等のがん検診（人間ドック）を実施している医療機関に協力を頂き、職域で実施されたがん検診の受診者数を把握する調査を行うこととしている。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：大久保委員報告

平成21年度実績は住民検診受診者数7,404人、要精検者数594人、要精検率8.02%、精検の結果、乳がん19名、がん発見率0.26%であった。職域検診受診者数1,326人、要精検者数166人、要精検率12.5%、精検の結果、乳がん3名、がん発見率0.23%であった。

比較読影実施率が約74%と高く、マンモグラフィ併用検診が導入され5年間経過し、経年受診者が増えている。委員より、新規受診者の掘り起こしが、今後、重要になってくると思われるという意見があった。

2. 平成22年度乳がん検診実績見込み及び平成23年度検診計画について：

下田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹

平成22年度実績見込みは、対象者数115,475人、

受診者数19,540人、受診率16.9%の予定である。前年度より若干上昇する見込みである。平成23年度実施計画は受診者数22,021人、受診率19.0%を予定しており、上昇傾向である。

3. 女性特有がん検診推進事業実績に係る全国との比較について：

下田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹

平成21年度女性特有のがん検診推進事業（乳がん無料クーポン券事業）対象者に対する利用率（受診率）について、全国実績と比較した結果は以下のとおりであった。

- (1) 鳥取県は、クーポン券配布枚数20,619件のうち、利用者数4,936件、利用率23.9%であった。
- (2) 全国の市区平均利用率26.6%に対し、鳥取県22.1%と低い結果であった。また、町村利用率においても、全国30.3%に対し、鳥取県29.2%と低い結果であった。
- (3) 市区の利用率を年齢別に比較したところ、鳥取県は全年齢で全国平均より低い結果となった。
- (4) 町村の利用率を年齢別に比較したところ、本県は40・45歳年齢で全国平均より低いものの、55歳以上では逆に全国平均を上回り、総数では全国平均に近い結果となった。

県としては、この情報を市町村に提供すると共に情報交換を行いながら、クーポン券活用支援を今後も行っていくこととしている。

委員より以下の質問があった。

女性特有のがん検診推進事業はいつまで続くのか。この事業によって、受診率向上効果はあったのだろうか。全国平均よりクーポン券利用率が低い原因究明を行っていないといけないという意見もあった。

これに対し県は、事業の期間については、5歳きざみで対象者を選定しているの、国は、5年間は継続実施と考えているようだとのことだっ

た。

また、本事業の対象者は本県検診対象者全体のわずか17%。この事業だけで大幅な受診率向上が見込めるかどうかは疑問であるが、クーポン券送付はそれだけでも啓発効果があり、前年比で全体の受診率が上向いたことから一定の受診率向上効果はあったものと推測する。

なお、無料クーポンの目的の一つに新規受診者の掘り起こしがある。新規事業の評価としては、新規受診者がどれくらいあったかが大事な要素。新規受診者数の把握については実施主体である市町村側に新たな集計作業が必要となることから、市町村の協力が得られれば県集計を取りまとめることは可能であるとのことだった。

4. 平成21年度乳がん検診発見がん患者確定調査結果について：石黒委員

平成21年度に発見された乳がん又は乳がん疑い59例（視触診のみの検診で発見されたがん1例含む）について確定調査を行った結果、確定乳癌56例（両側1例）、調査中3例であった。

- ・平成21年度検診発見乳癌は56例で、非浸潤癌は9例であった。境港市での増加が著しい。
- ・マンモグラフィによる非触知乳癌の発見が24例（44.4%）と平成20年度61.5%より減少した。
- ・一次検診要精検例でマンモグラフィ異常なしが3例あった。
- ・リンパ節転移率はマンモグラフィ発見例において6.7%（平成20年度45.5%）で触知例では23.8%であった。
- ・触知乳癌のほうが化学療法を有意に多く受けていた。術前化学療法2例、トラスツズマブ使用5例であった。
- ・平成19年、20年度に検診を受けていた症例が16例あった。16症例については、各地区読影委員会において、症例検討を行って頂くこととなった。

5. 地区症例検討会等について

平成22年度各地区読影会実施中間報告は以下のとおりである。

東部（工藤委員長）－東部医師会館を会場にして、週2回読影会を開催している。11月末で79回開催し、1回の平均読影件数は35件であった。5市町を対象に2,757件の読影を行い、CAT1が2,152件（78.06%）、CAT2が457件（16.58%）、CAT3が139件（5.04%）、CAT4が7件（0.25%）、CAT5が2件（0.07%）であった。比較読影件数1,546件（56.1%）である。

平成22年8月9日と12月13日に、要精検症例を集めた読影委員症例検討会を開催した。

中部（石黒部会長）－県立厚生病院を会場にして、週1回読影を行っている。11月末で26回開催し、1回の平均読影件数は24件であった。5市町を対象に4医療機関で撮影された写真631件の読影を行い、CAT1が571件（90.49%）、CAT2が29件（4.60%）、CAT3が29件（4.60%）、CAT4が2件（0.32%）であった。比較読影件数40件（6.3%）である。

症例検討会は3月に予定している。

西部（石黒部会長）－西部医師会館を会場にして、週2回読影を行っている。11月末で36回開催し、平均読影件数は32件であった。3市町を対象に1医療機関で撮影された写真1,137件の読影を行い、CAT1が878件（77.22%）、CAT2が174件（15.30%）、CAT3が82件（7.21%）、CAT4が3件（0.26%）、であった。比較読影件数592件（52.1%）である。

西部においては、院内読影を認めているため、ほとんどの医療機関が読影会に提出されていない。

症例検討会は3月に開催する予定である。

協議事項

1. マンモグラフィ読影講習会について

前回会議の協議を踏まえて、読影体制強化のため、「マンモグラフィ検診精度管理中央委員会」との共催による研修会を計画にするに当たり、県内における受講希望アンケートを行った。その結果、28名の希望者があった。

1回の受講者は約50名のうち、県内希望者が半数以上あることから、平成23年度に研修会を開催することとなった。開催計画は以下のとおりである。

- (1) 講習会名：鳥取県マンモグラフィ読影講習会
- (2) 期日：平成23年10月29日(土)～30日(日)
- (3) 会場：鳥取県健康会館
- (4) 主催者：鳥取県健康対策協議会

この講習会は、新規読影医師の講習と資格試験

を行う。また、既に資格がある読影医師の5年に1回の更新講習会も兼ねて開催したいと考えている。

この講習会は、鳥取県地域医療再生基金からの補助金により開催する予定。

2. 平成23年度乳がん検診従事者講習会について

平成23年8月に中部で行うこととなった。

3. 乳がん検診精密検査医療機関登録の更新について

平成22年度に登録更新となっているので、平成23年2月頃に更新手続きを行う。

4. 乳がん検診発見患者個人票様式変更について

個人票に腫瘍径の記載がないので画像上判断したがんの大きさを記入する欄を設けることとなった。

鳥取医学雑誌への投稿論文募集と医学会演題募集について

「鳥取医学雑誌」は、鳥取県医師会が発行する「学術雑誌」で年4回（3月・6月・9月・12月）発行しています。締切日は設けておりません。「受理」となった論文は、発行月に最も近い医学雑誌へ掲載いたします。投稿にあたっては、鳥取医学雑誌に掲載している「投稿規定」をご覧ください。優秀な論文に対しては、定例総会席上「鳥取医学賞」が贈られます。

また、「興味ある症例」（2頁）への投稿も併せて募集致します。投稿要領は編集委員会へご請求下さい。

会員各位の日常診療の参考となる論文のご投稿をお待ちしております。

本会では、例年春・秋の2回（概ね6月・11月）「医学会」を開催しており、特別講演或いはシンポジウムなどに加えて会員各位の一般演題（研究発表）も募集しています。演題の締め切りは、開催の1ヶ月前としております。詳細については、当該時期に改めてご連絡いたしますが、多数ご応募下さるようお願いいたします。